

「2020 春季生活闘争」討論集会（12/7）

春闘取り組みを「経済の自立的成長」や「社会の持続性」につながる運動へ 「働く者自らが発言・参加し、成果と達成感のある春闘に」 ～構成組織、各地区連合から 160 名が出席～



連合福島・今野会長

連合福島2020春季生活闘争討論集会は、12月7日（土）10時～福島市・杉妻会館において、県内の構成組織・地区連合の役員160名が出席する中で開催された。

連合福島を代表して今野泰会長より、連合ボランティアに対する御礼を述べた後に、「昨今は労働組合の輪郭が不明瞭になって存在意義が希薄になっている。政府がワークフェアを推進しているが、手段や方法には大きな問題がある。

最も重要なのは連合がこれまで主張してきた「ディーセントワーク」（働きがいのある人間らしい仕事）でなければならず、そのための集团的労使関係を形作るのは労働組合であり、労働現場で働く者が自ら発言し参加決定をしていかなければならないことを皆さんと確認をしながら、成果と達成感のある春闘としていきたい」と春闘に対する考えを示した。

続いて、「連合2020年春季生活闘争方針について」と題して、連合・石田昭浩副事務局長より講演を受けた。石田副事務局長からは12月3日に決定した春闘方針の中で、労働者を取り巻く環境や闘争方針にある背景について説明を受け、「連合の春闘が組合のない労働者に波及して「経済の自立的成長」や「社会の持続性」につながる運動にしていかなければならない」と提起があった。

質問・意見・要望として、ゴム連合・佐藤さん、電機連合・塩澤さん、JR連合・大橋さん、福島地区連合・紺野さんから発言があり、石田副事務局長から見解が示された。



連合・石田副事務局長



進行する連合福島・阿部副事務局長



ゴム連合 佐藤さん



電機連合 塩澤さん



JR連合 大橋さん



福島地区連合 紺野さん